

城址公園の木 その5

—ユリノキ—

太田道人

ちょっと変わった葉をしているユリノキ。葉の先端がへこんでいますね。先がへこんだ葉を持っている植物は、ほかにイチョウやミヤマカワラハンノキぐらいで、たいへん珍しいものです。この木の名前は、葉や花の形からつけられています。葉を①のようにして見ると、着物の「はんでん」がぶらさがっているように見えませんか。それで、ハンテンボクという名前があります。また、別名にチューリップの木というのがあります。花の咲き方はチューリップを思い出させます(②)。チューリップと比べて、がくが3枚余計にあたり、オシベ・メシベがたくさんある点は異なりますが、花びらが6枚で上に向かって咲く様子はまさにチューリップでしょう。

ユリノキのことを英語では、Tulip treeといいます。植物の名前には、「俗名(ぞくめい)」「和名(わめい)」「学名(がくめい)」の三つがあります。ハンテンボク、ユリノキ、チューリップの木などはどれも俗名です。このうちユリノキが日本の正式な和名です。学名は、横文字のラテン語で、*Liriodendron tulipifera* (リリオ・デンドロン チュリピ・フェラ) といいます。リリオとはユリという意味。デンドロンは木、チュリピはチューリップ、フェラは花です。まとめて、「チューリップの花をしたユリの木」。つまり、ユリノキの名前は和名も学名も英語名もユ・リ・ノ・キである

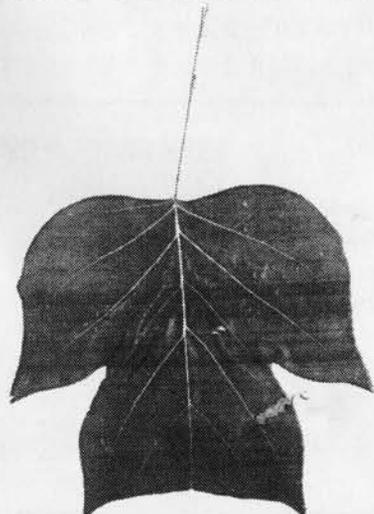
わけです。

さて、ユリノキの原産地は北アメリカで、日本には自然の状態では生えません。つまり、わたしたちが目にするのは全部植えられたものです。とすると、日本で使われているユリノキという和名は、日本で考え出されたものではないということになります。おそらく、学名のリリオ・デンドロンを訳したのだと考えられます。一方のハンテンボクという別名は、はんでんという着物が日本だけのものですから、こちらは日本のオリジナル名ということになります。

ユリノキの花は、5月の初め頃に咲きます。でも、どの木にも花が咲くわけではないようです。花をつける木は、たいてい葉っぱをたくさんつけています。毎年枝をきれいに刈られる木にはめったに花が咲きません。これは花を咲かすためのエネルギーの量がちがうためです。植物は、葉で養分を作りますが、葉が少なくなってしまうと栄養不足になってしまいます。植物には、養分が足りないと花をつけなくなるものと、養分が足りない分だけ体の成長を少なくして、少ないながらも花を咲かせるものがあります。ユリノキのように日あたりを好む木は、花をつけなくなる方です。

ユリノキの名前の由来となった花を見るには、あまり刈り込みのされていない街路樹をさがすといいですね。(おた みちひと) 植物担当

①



②

